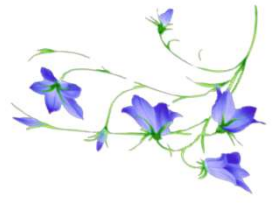




院長通信



2026年8月 Vol.7

「情報リテラシー」

昨今のSNS (social networking service) の発達には目を見張るものがあります。単なる意見の交換や情報共有のみでなく、国を揺るがす政策の発表や学術的な情報までが、そこから発信されています。一方で、フェイク動画や詐欺的な情報、あるいは「いじめ」に代表されるような暴力的な情報が問題になっており、一部の国では青少年でのSNS利用を制限する動きも起きています。



その中で、SNSに様々な規制や制限をかけるべきという議論がありますが、皆さんはどう思いますか？私は、一定の（表現の自由や言論の自由を妨げない範囲で）ルールは必要だと思いますが、もっと大事なのは多くの人が「情報リテラシー」を持つことだと思います。

リテラシーというのは「書き言葉を、作法にかなったやりかたで、読んだり書いたりできる能力」（webllio辞書）と書いてあります。私は「ある事柄を、正しく理解してそれを人に伝えたり、応用したりすることができる能力」だと思っています。すなわち情報リテラシーとは、情報を正しく理解してそれを使いこなす能力ということです。そう言うとても困難に感じる人がいると思いますが、私はそうでもないと思っています。

その大部分は多くの人が持っている「知恵」と「常識」の範囲に入っているものだと思います。例えば、「そんなうまい儲け話を人に提供するなら自分でやって儲けるだろう」とか「生産コストより販売価格が安い商品はない」という「常識」を考えれば詐欺的広告の多くは見抜けるはずです。また、正しいという確かな根拠もなく、情報の再発信をしたら、他人をだますことになり迷惑をかけるという「知恵」を持ち合わせるのは難しくはないはずです。人を傷つけるような言葉や画像を拡散したりすることや、それを安易に信じることは悪であり罪であることも「常識」ではないでしょうか？フェイク動画も、現在の技術で非常に精巧な画像加工が可能であるという「常識」、そのうえで発信者や画像の内容を「正しい」と判断できる（それができなければ自分の心にとどめる）「知恵」があれば、対応できると思います。

多くの皆さんが「情報リテラシー」を磨いて、情報化社会の荒波を乗り越えられることを願っています。

院長 福田 直



医療法人社団育生会